

平成29年中の水難事故発生状況

平成29年中の水の事故は22件発生し、水難者は28人で、そのうち9人の方が亡くなりました。

特徴として、

- 発生22件のうち、海での発生は14件、川での発生は7件
- 水難者28人のうち、最も多いのが釣り、魚取り等の行為中が15人が挙げられます。

〈 発生状況 〉

区 分		平成29年	平成28年	増 減
発 生 件 数		22	29	-7
水難者数 (人)	死 者	9	21	-12
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	5	6	-1
	無事救出	14	6	8
	合 計	28	33	-5

〈 発生態様 〉

● 場所別発生状況

()は前年比

場 所	件 数	人 員				
			死 者	行方不明者	負傷者	救 助
川	7 (1)	12 (4)	3 (-3)	0 (0)	0 (-1)	9 (8)
海	14 (-9)	15 (-10)	6 (-9)	0 (0)	4 (-1)	5 (0)
池等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)
計	22 (-7)	28 (-5)	9 (-12)	0 (0)	5 (-1)	14 (8)

※ その他はプール等

● 行為別人員

()は前年比

場 所	行 為 種 別					計
	水 泳	水遊び	ボート遊び	釣り・魚取り等	その他	
川	0 (0)	4 (0)	0 (0)	6 (3)	2 (1)	12 (4)
海	1 (1)	1 (-7)	0 (-1)	9 (-3)	4 (0)	15 (-10)
池等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
計	2 (2)	5 (-7)	0 (-1)	15 (0)	6 (1)	28 (-5)

※ 行為種別のその他は救助活動等

● 年齢別遭難者数

()は前年比

項目 年齢	人 員		前年比	り 災 別 人 員			
	29年	28年		死者	行方不明者	負傷	救助
0～9	3	1	2	0(-1)	0(0)	1(1)	2(2)
10～19	3	4	-1	1(-1)	0(0)	0(0)	2(0)
20～29	0	3	-3	0(-3)	0(0)	0(0)	0(0)
30～39	0	4	-4	0(-1)	0(0)	0(-3)	0(0)
40～49	6	4	2	2(1)	0(0)	1(-1)	3(2)
50～59	2	1	1	1(1)	0(0)	0(-1)	1(1)
60～69	4	7	-3	1(-4)	0(0)	0(0)	3(1)
70～79	4	8	-4	1(-7)	0(0)	1(1)	2(2)
80～	6	1	5	3(3)	0(0)	2(2)	1(0)
計	28人	33人	-5	9(-12)	0(0)	5(-1)	14(8)

● 月別発生状況

()は前年比

項目 月	件 数	水 難 者 数				
		死 亡	行方不明	負 傷	救 助	
1	1(-1)	1(-1)	1(0)	0(0)	0(0)	0(-1)
2	0(-1)	0(-1)	0(0)	0(0)	0(-1)	0(0)
3	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
4	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)
5	2(1)	3(2)	1(0)	0(0)	0(0)	2(2)
6	2(1)	2(1)	1(0)	0(0)	0(0)	1(1)
7	3(-8)	6(-5)	2(-8)	0(0)	0(-1)	4(4)
8	7(-2)	9(-4)	2(-2)	0(0)	2(-2)	5(0)
9	1(-1)	1(-1)	1(-1)	0(0)	0(0)	0(0)
10	4(2)	4(2)	1(-1)	0(0)	1(1)	2(2)
11	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
12	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)
計	22(-7)	28(-5)	9(-12)	0(0)	5(-1)	14(8)

〈 水難防止のお願い 〉

☆ 保護者等の皆さんへ

- 子供たちだけでの水遊びはさせず、決して目を離さないでください
- 子供たちには、日頃から危険な場所には近づかないよう言い聞かせましょう
- 危険な場所で遊んでいる子供を見掛けたら注意しましょう

☆ 海や河川へ出掛ける皆さんへ

- 飲酒後や体調の悪いときは、泳がないでください
- 天候には十分注意してください
- マリンスポーツや磯釣りなどをする場合は、必ずライフジャケット（救命胴衣）を着用してください。



〈 三重県警察警備艇 あらしま 〉

平成29年中の山岳遭難発生状況

平成29年中の山の事故は57件発生し、遭難者は76人で、そのうち3人の方が亡くなりました。

特徴として、

- 遭難態様別では、遭難者76人中、半数以上が「道迷い」43人(56.5%)
- 発生場所別では、発生件数57件中、鈴鹿山系での発生が43件(75.4%)などが挙げられます。

〈 発生状況 〉

区 分		平成29年	平成28年	増 減
発 生 件 数		57	57	0
遭難者数 (人)	死 者	3	3	0
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	19	28	- 9
	無事救出	54	42	12
	合 計	76	73	3

〈 鈴鹿山系発生状況 〉

() は御在所岳の発生状況

区 分		平成29年	平成28年	増 減
発 生 件 数		43(17)	40(13)	3(4)
遭難者数 (人)	死 者	2(1)	1(1)	1(0)
	行方不明者	0(0)	0(0)	0(0)
	負 傷 者	17(8)	21(8)	- 4(0)
	無事救出	37(10)	29(7)	8(3)
	合 計	56(19)	51(16)	5(3)

〈 台高山系等発生状況 〉

区 分		平成29年	平成28年	増 減
発 生 件 数		5	6	- 1
遭難者数 (人)	死 者	0	2	- 2
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	2	4	- 2
	無 事 救 出	5	0	5
	合 計	7	6	1

〈 その他山系（山城）発生状況 〉

区 分		平成29年	平成28年	増 減
発 生 件 数		9	9	- 2
遭難者数 (人)	死 者	1	0	1
	行方不明者	0	0	0
	負 傷 者	0	3	- 3
	無 事 救 出	12	13	- 1
	合 計	13	16	- 3

● 態様別遭難者数

年	態 様								
	道 迷	滑 落	転 倒	転 落	疲 労	病 気	落 石	そ の 他	計
29年	43	16	4	0	10	1	0	2	76
28年	38	18	6	4	5	0	1	1	73
前年比	5	- 2	- 2	- 4	5	1	- 1	1	3

● 年齢別遭難者数

()は前年比

年齢	項 目			り 災 別 人 員				
	人 員		前年比	死者	行方不明者	重傷	軽傷	救助
	29年	28年						
0～9	4	1	3	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	3(2)
10～19	3	1	2	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)
20～29	9	9	0	0(0)	0(0)	1(1)	4(3)	4(-4)
30～39	5	13	- 8	0(0)	0(0)	0(-3)	0(-1)	5(-4)
40～49	13	9	4	0(0)	0(0)	1(0)	5(2)	7(2)
50～59	23	13	10	1(0)	0(0)	1(-2)	1(-4)	20(16)
60～69	10	15	- 5	0(-2)	0(0)	0(-4)	5(2)	5(-1)
70～79	7	11	- 4	0(0)	0(0)	0(-1)	0(-2)	7(-1)
80～	2	1	1	2(2)	0(0)	0(0)	0(-1)	0(0)
計	76人	73人	3	3(0)	0(0)	3(-9)	16(0)	54(12)

● 月別発生状況

()は前年比

項目 月	件数	遭難者数				
		死亡	行方不明	負傷	救助	
1	0(-4)	0(-6)	0(0)	0(0)	0(0)	0(-6)
2	3(-1)	7(3)	0(0)	0(0)	0(-3)	7(6)
3	5(0)	6(-3)	0(0)	0(0)	4(2)	2(-5)
4	6(3)	8(5)	1(1)	0(0)	1(-1)	6(5)
5	10(1)	12(2)	0(0)	0(0)	4(-3)	8(5)
6	7(6)	8(7)	2(2)	0(0)	2(2)	4(3)
7	5(2)	5(2)	0(0)	0(0)	1(-1)	4(3)
8	5(1)	7(3)	0(-1)	0(0)	1(0)	6(4)
9	4(-1)	7(-1)	0(0)	0(0)	2(0)	5(-1)
10	3(-7)	3(-13)	0(0)	0(0)	2(-2)	1(-11)
11	8(1)	11(4)	0(-1)	0(0)	2(-2)	9(7)
12	1(-1)	2(0)	0(-1)	0(0)	0(-1)	2(2)
計	57(0)	76(3)	3(0)	0(0)	19(-9)	54(12)

〈 山岳遭難防止のお願い 〉

- 自分の体力や経験に応じた山やコースを選びましょう
- 早朝から登山を開始し、お昼過ぎには下山するなど、時間に余裕のある計画を立てましょう
- 体調が悪いときや危険を感じたら、無理をせず引き返しましょう
- 山の天候は変わりやすいので、気象情報に注意しましょう
- 万一に備え、雨衣や非常食等を携行しましょう
- 通信手段として充電の完了した携帯電話等を携行しましょう（携帯電話は通話できない場所があることに注意！）

〈 鈴鹿山系を登山される皆さんへ特にお願いです！ 〉

三重県内での山岳遭難の多くが、鈴鹿山系で発生しています。

鈴鹿山系の山々はハイキング気分で登れる山ではありません。特に、御在所岳はロープウェイを活用し簡単に登れそうに思えますが、登山道はいずれも険しく、体力を必要とします。自らの体力、技術にあった山を選び、しっかりした登山装備を準備し、極力、単独登山を避け、グループでの登山に心掛けましょう。



〈 山岳警備隊による訓練状況 〉